

“ごあいさつ”

昭和18年10月に東京陸軍少年飛行兵学校に入校しました。

飛行兵としてお国のために尽くそうと思ったからでした。

私の訓練中には少年飛行兵出身の先輩たちが、次々と特攻隊員として南の戦場を目ざし散っていきました。多くは20才未満の少年兵でした。自分ももうすぐ先輩たちの後に続いていくものだと思います。

鹿児島を知覧特攻遺品館には、特攻隊員の写真が飾られています。みんなあどけない顔をしています。笑顔が美しいです。神々しいまでに美しいです。

先輩たちはどんな気持ちで敵艦に突っ込んでいったのだろかと思うと亡き先輩たちの国を思う気持ちが伝わってきて、無情に悲しくなり憤りを覚えます。

今われわれがこうしてここに生きているのは、そして平和があるのは先輩たちの尊い犠牲の上にあるのだと思うと、とてもたまらない感謝の気持ちでいっぱいになります。

現在の国際情勢は、何時戦争が起きてもおかしくない情勢にあります。戦争が人間を気違いにします。

どのように始められ、どのように終わっても国家と国民のむごたらしい傷と負の遺産をもたらします。この負の連鎖を断ち切って、平和な世界を築くには、そして戦争を避けるためには、私たちがお互いを尊重し、戦争の醜さと残酷さを常に原点において仲良くする方向に向かわなければならないということを痛感しています。

記 海部 庄三朗